

# Close up

## 「アジア国際金型産業連盟」が発足 中国、台湾、香港、マレーシアの13団体が調印

アジアの金型産業が大同団結——。中国の呼びかけで発足する「アジア国際金型産業連盟」の調印式が11月16日、中国広東省・東莞市の東莞嘉華酒店（リーガルパレスホテル）で行われた（写真）。中国の10団体と台湾、香港、マレーシアの合計13の金型団体が加盟。アジアの金型産業の振興・交流を深め、金型技術のレベル向上を目指す。中国でこの種の国際的な金型団体が発足するのは初めて。中国では各団体が地理的に離れているため、国内での協力関係が乏しかったうえ、周辺国・地域との連携も進んでいなかった。

調印式には中国金型工業協会の武兵書副理事長、台湾区金型工業同業公会の辛培舜総幹、香港金型産品科技協会の蔣麗苓理事長ら各団体のトップが出席。「広東省を中心とする華南地域は世界のモノづくりの一大拠点となっており、さらなる金型のレベルアップが必要。今回の調印によりアジア全体の金型産業を盛り上げていこう」と武兵書副理事長は中国式の熱い演説をし、会場は中国、台湾、香港やマレーシアなど東南アジアのメーカー関係者、新聞・雑誌の報道関係者ら300人が出席し、賑いを見せた。

この日は迅通展覽有限公司が東莞市内で主催する「第13回中国東莞国際金型・金属加工・プラスチック

ク・包装・ゴム展示会」（DMP、11月16日～19日）の開催初日にあたり、DMPの開会式にも中国、台湾など各国・地域の金型団体のトップらが顔を揃えた。

実は、今回発足の「アジア国際金型産業連盟」の仕掛け人が、DMPの主催者である迅通展覽の梁天富主席だ。「今年のDMPは高品質で精密な金型加工を重視した。金型連盟の調印式も展示会の会期中に行うのが絶好の機会と考えた」（梁主席）と満面の笑みを見せる。アジア全体の金型産業の振興・交流を積極的に押し進め、来年は日本、韓国、タイ、インドネシアなどの金型団体にも参加を要請する。将来は30～40団体を想定し、文字通りアジアの金型産業を横断する国際組織への発展を目指す。域内の自動車やエレクトロニクス産業などの急成長に伴い、アジアの金型技術は年々向上しているものの、日本の技術レベルにはまだ及ばないとされ、「ぜひ日本の金型団体にも参加して欲しい」（同）と熱く語る。いずれはDMPの展示会場でアジア金型国際会議の開催を目指す方向だ。また、DMPの特別展として今回、金型連盟主催の「国際金型製造・設計イノベーション成果展」も初めて開催された。

アジア国際金型産業連盟の加盟団体は下記のとおりである。



「アジア国際金型産業連盟」調印式

- 中国：広東省機械金型科学技術促進協会、広東省金型工業協会、深圳市金型技術学会、広州市金型工業協会、佛山市金型業協会、東莞市金物機械金型業協会、上海市金型技術協会、蘇州金型業協会、寧波市金型業協会、瀋陽市工業設備金型業協会
- 香港：香港金型産品科技協会
- 台湾：台湾区金型工業同業公会
- マレーシア：マレーシア金型協会

- 事務局：迅通展覽有限公司
- 特別スポンサー：昆山国際金型城（編集部）